

「昭島市・立川市実技交流会」 松尾 光春（拝三小地区・2期目）

昭島市・立川市のスポーツ推進委員実技交流会が、4月20日立川市柴崎体育館で行われました。実技交流会はニュースポーツを親しみ、両市の推進委員の親睦を深めることを目的としています。今回は「ゴールドッチ」で、初めて耳にする人が多いかもしれませんが、公式には最大25m×42m、最少は15m×25mのコートを使って、ドッチビーをゴールポストに投げ入れて得点を競う競技です。

ドッチビーとは、柔らかい素材でできているフライングディスクの一種で、当たっても痛くなく、子どもから大人まで楽しめます。ルールはフィールドプレイヤー5人によるチーム戦。ディスクは持って歩かない、手渡し禁止、必ず投げることで、接触禁止、キーパーは固定せず自由に交代可能。プレイヤーも交代可能で、その他ゲームの進行、中断、再開、ファール等についても細かくありますが、今回は初めての人が多く、競技を知り

親しむことが目的であり、特別ルールで行われました。

バレーボールコートを使い、各チーム6〜7人が4チームに分かれ、前後半5分、休憩1分のリーグ戦です。ディスクをうまく味方に投げられなかったり、受け取る方も取れず落したり、思わず敵チームに投げってしまう珍プレーの連続で笑いあり、時には素晴らしいシュート、好プレーもありました。5分のゲーム時間が長く感じ、約2時間の実技は汗と疲労困ぱいのうちに終わりました。

実技後は懇親会が行われ、成績発表とともに、好プレー珍プレーに話が盛り上がりました。



「クッパ体験」 宮本 孝之（つじが丘小地区・6期目）

5月初旬、スポーツ教室委員会主催の『クッパ』体験会が開催されました。クッパは木の棒を投げ、木の的を倒していく、2チーム対抗の的当て・陣取りゲームです。

①コートは8m×5m長方形。中央にセンターラインを引き、2チームが向かい合って試合をします。

②両チームのベースライン（5m）にベースクッパ（四角柱の木片）を5本ずつ並べ、コートの真ん中に、キングと呼ばれる大きい木片を一つ置きます。

③相手コートに並んだベースクッパをめがけて、先攻のチームから交互に、カストピンナ（円筒の形をした木）を6本ずつ投げていきます。

投げ方は下手投げで、ベースラインより後方から投げます。④自分のコートのクッパが倒されたら、次のターンで倒されたすべてのクッパを相手コート内に投げ入れてから攻撃をします。これをフィールドクッパと呼び

ます。投げ入れたフィールドクッパは、その場に立てて、新たなにします。

⑤フィールドクッパが相手コート内にある場合は、ベースクッパより先にフィールドクッパを倒さなければなりません。

⑥また、相手チームが投げ入れたフィールドクッパが倒されずに自分のコート内に残っている場合は、センターラインに一番近いフィールドクッパの位置まで前進して攻撃ができます。

⑦相手のコートにあるクッパをすべて倒すと、中央にあるキングを倒すことができ、先にキングを倒したチームの勝ちとなります。ただし、相手のコートのクッパを全部倒す前に誤ってキングを倒すと負けとなります。

